

神女広報

CROSSROADS

vol.13
2012 Winter

神戸女子大学
神戸女子大学大学院
神戸女子短期大学
神戸女子大学教育センター



特集

記念の年によせて

ハワイ大学交流30周年

神戸女子大学古典芸能研究センター開設10周年

- 6 教育研究活動
- 12 学園トピックス
- 15 大学連携
- 16 地域連携
- 18 インフォメーション

学校法人行吉学園

記念の年よせて ハワイ大学交流30周年記念式典に臨んで

30th Anniversary of the Program with University of Hawai'i

神戸女子大学国際交流推進部 部長（文学部教授） アン・ケーリ
Ann Cary



「継続は力なり」ということわざを思い出します。神戸女子大学とハワイ大学の協定に先立ち、1981年に学生のための語学研修が始まりました。これまでに神戸女子大・短大は2,500名を超える研修生をホノルルへ送り出してきました。2011年9月2日に、ホノルルにてハワイ大学主催の両大学交流30周年記念式典と夏期語学研修修了式が執り行われました。開会式では、ハワイならではの音楽や踊りが披露され、そのあと挨拶と祝辞、昼食、そして30年の歴史をつづるスライドショー、修了式へと続き、出席者全員の紹介もありました。

式典と昼食会には、行吉 誠之理事長をはじめ、神戸女子大学波田 重照学長、短期大学長瀬 莊一学長、文学部英語英米文学科主任の海老 久人教授、ハワイセミナーハウス寮監である総務課岡野 時子課長補佐、国際交流推進事務室の奥野 なつき課員と私の7名に加え、15名の夏期語学研修生も出席しました。

ハワイ大学側からは総長ヴァージニア・ヒンシャー博士（Dr. Virginia Hinshaw）、アウトリー・チカレッジ学部長ウィリアム・チズマー博士（Dr. William Chismar）、同国際プログラム統括責任者ジュディ・エンシング氏（Judy Ensing）と10名の教員とスタッフに加え来賓として前アウトリー・チカレッジ学部長ピーター・タナカ氏（Dr. Peter Tanaka）もお見えでした。ヒンシャー総長、チズマー学部長、エンシング氏の皆様は祝辞で強調されたのが、いかに学園創設者の故行吉 哉女先生が教育者として先見の明を持たれていたか、です。行吉 哉女先生は、本学の学生達が広く世界に通用するコミュニケーション力を身につける手段の一つとして、留学・語学研修を確立する必要性を早くから説かれ、それを実現されました。そのヴィジョンへの深い尊敬と神戸女子大・短大生の留学先としてハワイ大学を選ばれたことに対する感謝の意を述べられました。以下、ヒンシャー総長の言葉を借りて、その内容をお伝えします。「今の時代にはグローバルな経験を持つこと、そして国境を超え世界の人々が共に歩んでいくにはそれぞれの能力を振り絞っていかねば、社会と人類の前進・発展は望めません。行吉 哉女先生は、30年以上前からすでに今の時代に向けての準備をされていたのです。行吉 哉女先生がはじめられた語学研修プログラムは大きく育ち、過去から現在、そして未来へと続くこの研修に参加する学生が、これからの日本を支える“living endowment”（生きた財産）となることは間違いありません」

今後もさらに工夫を加え、創造的に発展させながら継続されていくハワイ研修となりますように願ってやみません。



ハワイ大学総長ヒンシャー博士にお礼を贈呈する行吉理事長

アウトリー・チカレッジ学部長チズマー博士に記念誌を贈呈する波田学長

記念式典後の昼食会にて

2011年度夏期語学研修生

ハワイ大学交流の今

ハワイ大学セメスタープログラム(半期留学プログラム)

2007年から文学部英語英米文学科の「ハワイ大学セメスタープログラム」が開始されました。希望者は前期と後期に分かれ、約4ヶ月間の留学プログラムに参加します。ハワイ大学との交流30周年を迎えた2011年9月には第10期生を派遣しました。

ハワイ大学提供科目一覧表

科目名	単位数	科目名	単位数
Special English Program	2	Integrated Skills	2
Intensive Spoken English Subjects (内訳) Oral Production	6 (2)	Introduction to English as a Foreign Language /	2
Listening	(2)	English as a Second Language Teaching	
Grammar	(2)	Methods	
TOEFL Training	1	Volunteer Work	2

ハワイセミナーハウス



セミナーハウスの様子

行吉学園は1989年6月にホノルルのヤング・ストリートにある鉄筋5階建てのマンションをセミナーハウスとして購入しました。ハワイ大学には徒歩で20分、市バスで6~7分の距離にあります。セミナーハウスは2人部屋で研修生は自炊をしながら共同生活をします。寮監が常勤し、研修生のいろいろな相談にのり、ハワイでの生活がもっと充実したものになるようサポートします。

ハワイ大学交流30周年記念誌



ハワイ大学交流30周年記念誌
左は一般配布用、右は贈呈用

ハワイ大学との交流30周年を記念して「行吉学園・ハワイ大学マノア校交流30周年記念誌」が発行されました。ハワイ大学の先生方の祝辞、行吉理事長、大学波田学長の挨拶、以下関係する教職員の交流30周年にこめられた思いが綴られています。また、ハワイ大学の語学研修プログラムに参加した卒業生からの言葉、クアキニ病院実習が始められたいきさつなど充実した内容の記念誌ができました。日・英対訳の形式になっています。記念式典で、波田学長からハワイ大学に贈呈しました。編集にかかわった教員は以下のとおりです。

編集委員 アン・ケーリ 海老久人 湯谷和女
編集協力 林マーシャ 平田耕造 木村恵子 木下由紀子
安原順子 八日市屋多栄子

クアキニ病院での管理栄養士養成課程の実習



クアキニ病院を訪問。前列中央がカンフア院長、
後列左から2人が三木副院長

家政学部管理栄養士養成課程はノース・クアキニ・ストリートのクアキニ病院で病院実習を実施しています。これは、病院で行う臨床栄養学実習を日本国内と同じ内容でハワイで実施する病院実習であり、2002年から毎年2名ずつ派遣しています。実習を修了した学生は、ICU(集中治療室)の患者の栄養管理やNST(Nutrition Support Team=栄養サポートチーム)の見学が大変勉強になったなどの感想を述べています。

ハワイ大学交流30周年記念にあわせて、行吉理事長、大学波田学長、短期大学長瀬学長、ケーリ教授、海老教授、岡野課長補佐がクアキニ病院を訪問し、院長のゲイリー・カジワラ先生、副院長の三木 信幸先生と親交を深めました。

神戸女子大学古典芸能研究センター開設10周年記念講演会開催によせて 古典芸能研究センターのめざすところ

神戸女子大学古典芸能研究センター センター長(文学部教授) 阪口 弘之



神戸は、古典芸能の風土として、豊かなイメージを増幅してきました。

古くより都内の最も周縁と位置づけられたこの地は、それゆえ常に都が意識されてきました。月の光、波の音、松の風に、流され人は、都へのなつかしさを募らせました。行平然り、源氏の君また然りです。一方で、海山間近く迫る要害の地は、都の覇権をかけた源平の激しい修羅の場と化しました。争乱の世を駆け抜けた武者たちの高名譚と背中合わせに、人の世の情けや哀れを誘う物語も生み出されました。神戸は、一見古典世界とは縁遠き地に思われがちですが、京都や大阪にも伍して特別な古典芸能風土を誇ります。

神戸女子大学古典芸能研究センターは、こうした芸能風土の地に、平成13年4月の設立以来、神戸ならではの独自の視座をもつ日本古典芸能の総合研究機関として活動してきました。具体的には、1能・狂言、2浄瑠璃・歌舞伎、3民俗芸能を三つの柱に、古典芸能の特質の解明に努め、その成果を学界および社会へ発信することを心がけてきました。

周知のように、日本古典芸能は、その成立経緯からみると、アジアや沖縄との関係視座の中で解明されるべきでしょう。他方で、上記諸芸能の淵源は、西宮、淡路、更には播州・摂州の寺社等にも辿れます。そうした点で神戸という地は、古くより海の回廊に開かれた窓口として、彼我の交流拠点としてあり、述べたような諸芸能の成立から今日までの発展の様相を長き時代にわたって関連にしてきました。私どもセンターも研究立脚点をその恵まれた立地性に求めてきました。その結果、導き出されたところが、グローバルな国際的視座と地域研究を結んでの総合研究拠点の形成です。ここ3、4年の公開行事を拾いあげても、沖縄文化の内地域化が進む中、沖縄祭祀データベースの構築、日本の最高知性を結集しての学術講演会「近松再発見」や貴重書展示会の実施、更にドナルド・キーン先生をお迎えしての国際シンポジウム「平家の魅力を神戸から」、あるいは「熊谷と敦盛」「松風村雨」「求塚」「兵庫の築島」など、地域ゆかりの伝承を取り上げての特別連続講座などは、センターの研究拠点のありようを世に問うものとして企画したものです。

古典芸能の総合的研究とは、日本文化研究そのものです。能、文楽(浄瑠璃)、歌舞伎と、次々に世界無形文化遺産に指定される日本の古典芸能を、彼我の視点から位置づける確かな研究拠点の構築整備が今待ち望まれています。そうした中で、本古典芸能研究センターは、「神戸(地域)」と芸能「神戸(地域)と世界」をキーワードに、地域に根ざす日本文化の普遍的特質を抽出し、日本古典芸能の新たな研究モデルを世界に発信する研究センターを目指したいと念じています。芸能研究における総合的視座は、たとえば諸芸能の混融と重層性、主要ジャンルの狭間に湮滅した芸能の掘り起こし、更にジャンル間をこえて伝搬をみる芸能の諸様相を明らかにして、芸能史研究の増幅と更新を約束するものと信じるからです。

本日の記念講演会も、ロバート・キャンベル先生にまさに世界的視座から「これからの日本古典芸能研究に期待されるもの」という演題でご講演を賜ります。十年の節目をむかえたセンターの、一段の高度化にもついでに率直なご意見をいただけるものと期待しています。

ご講演のあとは、文楽をお楽しみいただけます。演目物は、10周年を記念して「寿式三番叟」と、須磨ゆかりの「一谷嫩軍記」組打の段を素浄瑠璃で語っていただきます。前者を選んだのは、歴史を刻む祝言曲ということもありますが、この演目が、本センターが柱とする能、浄瑠璃、民俗芸能の三要素を併せ持つことによるものでした。荘重な儀式性と、一転して歡喜躍動する景事という両面から成るこの曲は、常に最高の顔合せで演じられることを約束とします。本日も素晴らしい熱演をご堪能ください。

ただ思ひもかけぬことに、企画検討のさなか、東日本大震災が発生しました。開催を見送るべきかとも考えましたが、むしろこの催しを通じて、被災された皆様への支援の思いを伝える道を選びました。今回の総タイトルを、東日本大震災復興支援「古典芸能の力、今この時」とさせていただいたのも、そうした思いからです。皆様方からいただきました入場料も全てを日本赤十字社を通じて被災地へ寄附させていただきます。一日も早い東北の復興をお祈りしたいと思います。

(古典芸能研究センター開設10周年 記念講演会プログラムより転載)

東日本大震災復興支援 古典芸能の力、今この時

— 神戸女子大学古典芸能研究センター開設10周年 —

神戸女子大学古典芸能研究センターでは、平成23年10月23日(日)、新神戸オリエンタル劇場(神戸市中央区北野町)において、「古典芸能の力、今この時」を開催しました。

満員の参加者をお迎えて、古典芸能のもつ豊かな可能性と魅力を問う素晴らしい催しとなりました。

■記念講演

「これからの日本古典芸能研究に期待されるもの」

ロバート・キャンベル 東京大学大学院総合文化研究科教授

■解説

「文楽上演よせて」

阪口弘之 古典芸能研究センター長

■文楽

「寿式三番叟」

太夫	翁	竹本津駒大夫
	千歳	豊竹呂勢大夫
	三番叟	豊竹咲甫大夫・豊竹芳穂大夫
三味線		鶴澤燕三・竹澤宗助・豊澤龍爾・鶴澤清公
人形	翁	吉田和生
	千歳	吉田陽彌
	三番叟	桐竹陽十郎・吉田玉女

■素浄瑠璃

「一谷嫩軍記」

組打の段

太夫
豊竹咲甫大夫

三味線
鶴澤燕三



記念講演中のロバート・キャンベル教授

記念講演では、キャンベル教授が、日本の古典芸能の特徴と魅力は、演者自らが型や芸を受継ぎながら同時に次世代へもつなぎ、長い時間をかけて成長にかかわり続け、観客はそれを見守り続けることであると、欧米の場合と比較しながらわかりやすくお話しくださいました。また、最新の研究動向として、個々の作品研究やジャンルを超えた、幅広い視野から考察した書物が紹介されました。日本人以上ともいべき軽妙洒落で、かつ奥深いお話しに皆々が聞き入りました。



文楽「寿式三番叟」

阪口センター長の解説では、演目・演者紹介のほか、「一谷嫩軍記」は、それまでのドラマ作法に定着していた「源氏は善、平家は悪」という典型的な枠組みにゆさぶりをかけた画期的な身替り劇であるという話がありました。

能「翁」をうつつした文楽「寿式三番叟」では、太夫や三味線が一列に並んだ華やかな舞台で、まず千歳と翁が登場し、賑やかな舞を見せました。続いて、三番叟の人形二体が派手な装束で登場、息のあった躍動感あふれる連れ舞を熱演しました。三番叟が踊りの合間に手に持った鈴で相方をつついたり、踊り疲れて扇をつかいながら一息ついたりする滑稽な仕草に、客席からは笑いが起こっていました。

「一谷嫩軍記」は、太夫の語りや三味線のみの素浄瑠璃でしたが、熊谷と敦盛の対決を目の当たりにしているかのような迫力に皆熱心に聞き入り、後半には忍び泣きも聞かれました。

実演後の数分間、キャンベル教授と司会者(文学部 大谷 節子教授)による即興のミニ「[ブンガク(※注)]講義があり、会場が沸きました。最後に、当日のご厚志を日本赤十字社へ寄附する義援金贈呈式がおこなわれ、閉会となりました。



素浄瑠璃「一谷嫩軍記」組打の段

この催しは、兵庫県教育委員会、神戸市教育委員会をはじめ多くの報道機関の後援をいただき、おかげさまで無事終了することができました。心より御礼申し上げます。

(※注)NHK教育テレビの語学教育番組。司会のキャンベル教授が英語に翻訳された日本の文学作品を紹介している。

神戸女子大学・神戸女子短期大学における教員免許更新講習について

教員免許更新講習は、平成19年に教育職員免許法が改正され、平成21年4月から実施されています。これは、近年の教員をめぐる大きな状況の変化、社会構造の急激な変化、学校教育における課題の複雑化や多様化など、その時々で教員として求められる最小限必要な資質能力が保持されるように定期的な刷新と確認を行う事を目的としています。教職生活全体を通して教員として必要な資質能力を保证するためのものひとつとして教員免許状更新講習は始められました。

平成21年4月以降に授与された教員免許(新免許状)には10年間の有効期限が定められており、有効期限の切れる2ヶ月前までの2年間のうちに大学などが開設する教員免許更新講習を30時間以上受講・修了し、都道府県教育委員会に申請すれば、再び10年間有効となります。

また平成21年3月31日までに授与された教員免許状(旧免許状)には有効期限が定められていませんが、旧免許状を有する現職教員には生年月日に応じて修了確認期限が設けられており、新免許状所有者と同様に教員免許更新講習を30時間以上受講・修了し、都道府県教育委員会に申請して更新講習修了確認を受ける必要があります。

神戸女子大学・神戸女子短期大学では創立以来、教員養成を柱の一つに掲げ、地元近畿はもとより各地に数多くの教員を輩出してきた歴史があり、それぞれの地域の教育に大きく貢献し、また高い評価を得ています。

教員養成を柱の一つに掲げる本学の理念に鑑みて、教育現場で活躍する卒業生、さらに地域の教員の方たちの免許更新へのニーズに応えることが教員養成を担う大学の社会に対する責任と考え、制度開始当初より更新講習を開設することにしました。

大学に於いては本実施開始1年前の平成20年に予備講習として6講座を開設したところ文部科学省より依頼があり政府広報番組にも取り上げられました。

平成21年の本実施年度からは短大も更新講習を開始しました。平成20年の予備講習を含め平成23年度までに大学は合計507名、短期大学は合計210名が受講しました。

受講した先生方からは「指導要領改訂のポイントを教えていただき助かりました」「すぐに明日から実践できそうです」「わかりやすい到達目標が明確でした」「資料も内容も思った以上のすばらしいものでした」といった感想を多数いただきました。

現在中央教育審議会の教員の資質能力向上特別部会において教員養成の在り方や教員の採用・研修など教職生活全体の改革について議論されています。その中で教員免許更新制についてもその在り方が議論されていますが、本学では現在の制度が続く限り更新講習を開設する予定です。



多くの参加者を迎えて講習が開始される



家庭科教育の講習



理科教育の講習

学園サポートセンター事務局(須磨キャンパス教職支援センター) 多畑 寿城

A-STEP(研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム)に 神戸女子大学家政学部の2教員が採択される

A-STEP(研究成果展開事業 研究成果最適展開支援プログラム)は、文部科学省所管である独立行政法人科学技術振興機構が実施している研究助成事業です。大学・公的研究機関などで生まれた研究成果をもとに実用化を目指すための研究開発フェーズを対象とした技術移転支援プログラムです。

A-STEPは、大きく分けて「フィージビリティスタディ(FS)」及び「本格研究開発」の2つのステージから構成されます。FSステージには3つの支援タイプがありますが、その目的に応じて、企業化への視点に立脚して技術移転の可能性を探索する「探索タイプ」に、本学の2名の教員が採択されました。

その他の支援タイプには、産学共同でシーズとしての可能性を検証する「シーズ顕在化タイプ」と、ベンチャー企業設立に向けた研究開発に先立ち、起業の可能性を検証する「起業検証タイプ」があります。

平成23年度第1回FSステージに、家政学部家政学科の山根 千弘教授と大森 正子准教授が、「探索タイプ」で採択されました。採択課題とその研究概要をふたりの先生に説明してもらいました。

①山根 千弘教授

採択課題:セルロース/水酸化ナトリウム水溶液から精密構造制御されて得たナノ食品
研究概要

セルロースはレーヨンやキュプラなどの再生繊維、セロファンやスポンジなどに広く使われています。セルロースは植物に含まれている天然物なので、本来可食性のものなのですが、前述の製品は食べことは出来ません。食感的に無理なこともあります。これらの製造過程において食品の加工には使ってはいけない化学物質が用いられているからです。

一方、我々の研究グループはセルロースを水酸化ナトリウム水溶液に溶解することに成功しました。これにより初めて、セルロースの形(構造)を精密に変えて(制御して)食品に応用することが可能になりました。そして油脂エマルジョン代替のノンカロリークリームを調製することができました。セルロースはカロリーゼロなので、ノンカロリーマーガリン、オイルフリーマヨネーズ、ロカローリ及びノンカロリーパンなどに展開中です。さらにこのセルロースは、経口的に摂取された変異原性物質を極めて効果的に排出できる可能性もあり、食の安全にも貢献できるかもしれません。



山根 千弘教授

②大森 正子准教授

採択課題:セメント製法に対するポロネーゼ製法によるコンフォートパンプスの開発
研究概要

市販されている靴の製法の多くはセメント方式であり、長期間履くことで、足部アーチが崩れる事を防ぐため、中敷きにクッション性を持たせ、アーチをフォローする形状にしたり、足部変形に合わせて高価なオーダー靴や個人に合った中敷きを特注するといった、対処療法がされています。また、これまでのコンフォートシューズは機能性重視で、ファッション性が低いものでした。そこで、ファッション性が高く、足部変形を伴わない靴の開発を目的として、靴製法の違いが足部や歩き心地、はき心地の改善に与える影響について、人間工学的に明らかにするため本研究を行うにいたしました。本研究は、神戸市商工会議所をとおして神戸ケミカルシューズ企業と共同で、前足部が袋縫いでフィット感が高く足あたりが柔らかいことが知られているポロネーゼ製法と従来法であるセメント製法による靴の歩行実験を行い、履き心地、歩き心地のよい靴の条件を明らかにし、新しいコンフォートパンプスの開発と提案を行います。



大森 正子准教授

大学院情報(論文の概要)

平成22年度博士学位授与者 博士論文概要

平成23年3月16日(水)に中村 芳久氏と鎌谷 かおる氏に博士学位がそれぞれ授与されました。
中村氏は神戸女子大学文学研究科英文学専攻、鎌谷氏は日本史学専攻として初の学位取得者となりました。

＜論文博士＞ 中村 芳久(神戸女子大学大学院文学研究科英文学専攻へ提出 主査:河上 肇作教授)
論文題目「認知文法理論 -主観性の言語学-」



本論文は、Langacker(1987, 1991)によって提唱され、その優れた理論的体系性によって現在発展を続けている認知文法理論(Cognitive Grammar)の研究である。現行の認知文法理論の問題点を指摘し、その解決のため、主観性に関して新たな視点を導入することによって、さらに説明力のある言語研究の枠組みを提示している。あらゆる言語のあらゆる構文の構造記述が可能であり、各言語が好む構文群を特定し、その好みのメカニズムをも明らかにするような理論を標榜するには、認知文法理論が認知基盤とする観る・観られ関係に関して、観る側と観られる側が未分(主客未分)であるような認知様式(1モード)を導入し、かつそこから観る側と観られる側が対峙するような(主客対峙の)認知様式(Dモード)へと展開する過程を考慮する必要がある。それによって、日本語をはじめとする主観性の強い言語群が自然に捉えられ、言語対照さらには認知的な言語類型論が可能となり、文化化の精緻な分析から言語進化の議論までもがその射程におさまることになる。

＜論文博士＞ 鎌谷 かおる(神戸女子大学大学院文学研究科日本史学専攻へ提出 主査:今井 修平教授)
論文題目「日本近世における生業と地域秩序形成の研究」



本研究は、近世の琵琶湖周辺地域を対象に、生業の実態とそれにより形成される地域秩序のあり様の検討を通じて、日本近世社会の特質を解明することを目的としたものである。とりわけ、漁業を主たる分析対象としており、琵琶湖全域で起こった漁業争論の史料を用いながら、漁業社会の特質を解明し、中世末から近世における琵琶湖全域の漁業秩序形成の段階的な把握を試みた。また、堅田(現大津市堅田)の商人の商業活動および、漁業経営への関与や、領主支配との関係を分析し、地域における生業と支配の問題を検討した。本研究は、日本社会において形成、発展した地域秩序を、生業の維持という視点で分析しようとするものである。近世史研究において、こうした視角は非常に有効なものであると考えている。

教養科目情報

大学・短大、就業力向上のための新キャリア科目が開講

厳しい雇用情勢や価値観が多様化する社会環境の中で、文部科学省は、近年、「キャリア教育義務化」の方針を打ち出しています。本学園においても学生へのキャリア教育の充実を図るため、キャリア科目の新設、再編が検討され、まず今年度から、大学の文学部(英語英米文学科、神戸国際教養学科)、家政学部(家政学科、管理栄養士養成課程)では2年次生を対象に「マイライフ・マイキャリア」、短期大学では1年次生を対象に「キャリアへのアプローチI, II」、各学部・学科の特色に沿った、低学年次学生へのキャリア支援に関する科目が開講されました。

大学の「マイライフ・マイキャリア」は自分の強みや弱みを見つめる自己分析にはじまり、今「企業が何を求めているのか」を確認し、後半には、マスコミ、旅行、アパレル、金融、サービスなど様々な業界の方々をお招きし、仕事理解を深める構成となっていて、目標設定やキャリアデザインを描くための基本的知識を得ることを目標とした、学生のキャリア意識を高めるカリキュラムになっています。

短大の「キャリアへのアプローチI, II」は、女性のための労働力市場やワークライフバランスについてなど、学生が自らライフデザインやキャリアデザインを描くことができるように、また、職業人・社会人としての常識や知識を身につけるための講義を展開しています。就職活動にスムーズに入れるようにエントリーシートや履歴書の書き方の実習、模擬面接や社会人としてマナーやビジネスマナーも学びます。

大学・短大の両講義とも、担当教員のほか、外部講師をお招きしてのゲスト講義も複数回組み込まれ、就職活動を将来に控えた学生にとって、キャリア意識の向上をめざす実り多い内容になっています。



短大「キャリアへのアプローチ」
人事課長が豊富な外部講師を交えた授業
(エントリーシート・面接・履歴書)の解説



短大「キャリアへのアプローチ」
総合生活学部専攻生を主な対象者
(日本経済新聞社が主催する就職講座)に参加した学生



大学「マイライフ・マイキャリア」
神戸新聞社 現社 専攻課長による講義

神戸女子大学須磨キャンパス図書館の紹介とイベント

須磨キャンパスの神戸女子大学図書館では、現在、蔵書数約260,850冊、雑誌タイトル数は国内約2,450種、国外は約452種を所蔵し、学生の学習や高等教育及び学術研究活動全般を支える重要な学術情報基盤の役割を担っています。

本学の特徴あるコレクションとしては、近世芸能資料を有する「森修文庫」、国文学関係資料として「石原文庫」「伊藤文庫」、英文学を中心とする「和知文庫」、民俗学関連の「喜多文庫」、そして「現代詩文庫」などがあります。

今回は、本学が行っている特色ある図書館の活動イベントを紹介します。



第20回チャットルーム講師の藤原喜美子さん

チャットルーム20回目の開催

「開かれた大学づくり」の一環として、平成16年にグループスタディ室(4階)を使って始めたのがチャットルームです。学外で活躍している地域の方や先輩たちを講師に招き、「コミュニケーションの場」及び「ゆとりの場」を提供するために、年に2-3回開催してきました。現在は、図書館を知的財産集積の場であると同時に、情報発信の場と捉え、学生が社会との接点を見出し、言葉を通じて社会と交流する場となることを目的に企画を立てています。対象者は学生、大学院生、聴講生など学内関係者で、平成23年11月に第20回目を迎えました。

今回のテーマは「本を出版した先輩の話」です。講師は、文学部史学科の卒業生である藤原喜美子さんです。主な著作に、「オニを迎え祭る人びと—民俗芸能とムラ(御影史学研究会民俗学叢書17)」があります。現在は、流通科学大学総合政策学部准教授として活躍されています。

藤原さんは、普通的女子大生が研究者になったきっかけや民俗学を研究する楽しさなどについて話され、参加した学生の質問に、熱心に答えてくださいました。大学で学修できることはめくられた環境にいるのだから、それを生かしてステップアップしてくださいと、学生に先輩としての貴重なアドバイスをしてくださいました。

教員推薦図書コーナー

各学科の先生が持ち回りで各々の専門領域を紹介するコーナーが2階にあります。各々の専門分野のスペシャリストが皆さんに是非読んでほしいと推薦する本が並んでいます。

各先生の宇宙を知ることができますし、並べられた本を読むことによって、各先生の世界に近づくことが可能です。推薦理由の文章を読むのも楽しみの一つです。専門が同じ学生にとっては、興味のある分野をより深く学修するための指標となり、また自分の所属する以外の学科では何を学んでいるかを垣間見ることができ、大変好評です。

現在までに、推薦された本は次のURLから見ることができます。

<http://lib.yg.kobe-wu.ac.jp/suisentoshio10.html>



教員推薦図書コーナー

読書マラソン

学生の活字離れに少しでも歯止めがかかればという思いから、在学中に100冊以上の本を読むことを目指す「読書マラソン」を平成19年10月から実施しています。

「読書マラソン」に参加するためには、まずエントリーして、感想カードを提出します。カードを提出することにポイントがたまり、獲得ポイントによって年間優秀者表彰を行っています。

また、学生のお勧めの書籍に感想を書いてもらった帯をして、さらに読者を広げる「読書マラソンコーナー」(3階)も設置しています。



読書マラソンのコーナー



読書の感想が書かれた帯をした本



国際交流

交流年表

(姉妹提携等)

1983年	ハワイ大学(米国)	2007年	チェンデラワシ大学(インドネシア)
1993年	ケント大学(英国)	2010年	ウダヤナ大学(インドネシア)
1997年	フライルク大学(独逸)	2010年	西安工程大学(中国)
2000年	華南師範大学(中国)	2010年	カセサート大学(タイ)
2006年	ガジャマダ大学(インドネシア)	2010年	高麗大学(韓国)
2006年	オークランド工科大学(ニュージーランド)	2011年	チェンマイ大学(タイ)
2006年	ピッツァー大学(米国)	2011年	カリフォルニア州立理工科大学ポモナ校(米国)

オックスブリッジ英語サマースクール2011

イギリスのオックスフォード大学及びケンブリッジ大学の学生が組織する Oxbridge Summer Camps Abroad (OSCA) の学生2名を講師としてオックスブリッジ英語サマースクールを



弓道体験

2011年7月28日(木)～8月5日(金)に須磨キャンパスで実施しました。今年にはケンブリッジ大学から香港出身のミシェル・リー(Michelle Li)さんとポーランド出身のアーチャー・レズカ(Artur Reszka)さんを迎え、

神戸女子大学の学生23名が参加しました。ファッションについての授業では、ゴミ袋や新聞紙で洋服を作成し、授業で習った英語表現を使いながら、ドレスのコンセプトやデザインを発表するなど、工夫を凝らした授業に学生は楽しみながら、英語のみ使うことを心がけ、積極的に参加していました。また、弓道体験のほか須磨海浜水族園や花火大会などの行事にも参加してもらい、交流を深めました。終了後に参加者へ実施したアンケートでは、「来年も参加したい」「期間を長くして欲しい」と好評でした。



授業風景

ニュージーランド・オークランド工科大学(AUT)学生 神戸女子大学を訪問



左から波田学長、マリカさん、ケリー教授



阪口教授の授業で紹介されるマリカさん

独立行政法人国際交流基金の支援による6週間の日本語研修に参加するために2011年9月から来日していたオークランド工科大学(AUT)学生、マリカ・ジャクソン(Marika Jackson)さんが10月5日(水)～7日(金)の期間、須磨キャンパスを訪問しました。初日には、神戸女子大学波田学長とケリー国際交流推進部長を訪問し、受入担当教員である文学部日本語日本文学科の安原 順子准教授のゼミや阪口 弘之教授他の授業に参加しました。お昼休みなどの空き時間は学生との交流を楽しんでいました。ホームステイは近隣のご家庭が快く受け入れてくださり、純和風のお宅でお寿司と一緒に作るなど、思い出深い体験ができました。

神戸女子大学 グローバル・ローカル研究会 2011年度 特別講演会

2011年10月12日(水)須磨キャンパス図書館AVホールにおいて、グローバル・ローカル研究会(文学部神戸国際教養学科の教員・学生で組織、年1回、国際的に活躍している方の講演を行っている)主催で、日米友好基金所長、日米文化教育交流会議事務局長、日米交流財団所長ペイジ・コッティンガム・ストリート氏(Paige Cottingham-Streeter)による特別講演「パブリック・ディプロマシーにおける人と人との交流-健全な日米関係構築に向けて-」が開催されました。

神戸女子大学波田学長、文学部神戸国際教養学科の教員9名、学生97名が出席し、同学科のアンケータ教授の逐次通訳付で進行しました。

講師の「多くの若い女性の前で日米の交流、人と人との交流について講演できることは大変うれいす。皆さん、女性の教育にパイオニア的な役割を果たしている大学で学習していることは幸運ですよ」という挨拶で講演は始まりました。

異文化の交流の重要性を学び、日米の交流に実際に関わっている方の話を聞くことができました。パブリック・ディプロマシーの具体例の説明や個人的な経験を通してのその関わり方、スキルや姿勢、今後の学習や進路についての重要な指針を与えていただきました。講演終了後には、学生より政治及び文化面からの質問があり、熱心な学生の姿勢に感心されたようでした。

以下、講演の概要を紹介します。

日本とアメリカの両国の学識者で構成され、日米の政府に文化・教育分野での交流の促進と相互理解の向上のアドバイスをおこなう日米文化教育交流会議(通称 カルコン CULCON)で「パブリック・ディプロマシー」は推進されています。

アメリカの「パブリック・ディプロマシー」について、特に人と人との交流がどのようにより日米関係に貢献できるかについてお話しします。私は、小学生のときから日本に関心があり両親と親日しました。学生時代にはアジア地域の勉強を行い、政治学、法学を学びました。弁護士資格を得た後、1988年にJETプログラム(※注)の教員として再来日しました。経済的、政治的に軋轢の高まっていた時で、日本の現状を自分自身の目で確かめ、日本人にアメリカのことを伝えたいと思いました。この時、相互に理解することの大切さとその方法を学びました。

友好な日米関係の構築に効果的な方法の一つが「パブリック・ディプロマシー」です。外交官レベルと同時に進行しており、オフィシャルなものも効果的と考えます。その定義はアメリカの国家的な関心を海外に理解してもらうために推進するもので、①アメリカ政府がスポンサー、②アメリカへの理解の推進と誤解の軽減、③一般市民にターゲットをおく、の3つがポイントです。具体的な例として、日本の大学がグローバル奨学金でアメリカの大学の教授などを招き学術の交流をする。日本の学生がアメリカの大学で学習の機会があるかを探る。国会のメンバーや若手の経済学者がアメリカの都市を視察、政府の役員に面会する。アメリカの多様なジャンルのアーティストが日本の聴衆の前でパフォーマンスをするなどです。人と人との本当の交流は直接に意見交換をし、共通の体験がなければ成り立ちません。両国の政府は人の交換を重視しています。モーリン・アンド・マイク・マンスフィールド財団と日米交流財団がその役割を担っています。

皆さんにできることとして以下の5つをあげます。

1. 外国語を勉強すること、2. 異文化、国際的な経験を持つこと、3. さまざまな分野の専門家に学びそして交流すること、4. パブリックスピーキングの技術を身につけること、5. インターンシップやボランティア活動を通じて職業となる技術を身につけること、です。

皆さん、自分が将来進む道にとつながる今の勉強をがんばってください。

(※注)JETプログラム:日本政府主催の国際交流事業。語外局の人々との相互理解を深めるため、外国語教育を推進し、日本の地域国際化を推進することを目的とする。



講演中のペイジコッティンガム・ストリート氏



ペリ教授と和やかに打合せ



学長室を田中の野村 和典准教授と訪問

アートギャラリー復活

須磨キャンパスA館耐震工事の関係で、休館しておりましたアートギャラリー（図書館1階）の展示が再開されました。

今回は、神戸女子大学非常勤講師（立体造形「彫置」担当：加藤 可奈衛先生）によるお皿を使ったアート「お皿プロジェクト2011 in 神戸女子大学」が平成23年7月7日（木）～21日（木）の期間に展示されました。

アートギャラリーの床一面に、直径26cm程の白色陶製の平皿が数百枚設置されました。そのお皿1枚ずつを小さなギャラリーにみたくて、学生に参加してもらいお皿の上に粘土や石膏などでできた小さな彫刻作品をおきました。アートギャラリーに、整然として神秘的な空間が広がりました。



お皿プロジェクト2011 in 神戸女子大学

「Smile空間プロジェクト」の一連のボランティア活動

家政学部家政学科上野 勝代教授の授業「住生活文化論」では、毎年、最初の講義で「住居の安全」の大事さを知ってもらうために、阪神・淡路大震災のことを取りあげています。今回は「人と防災未来センター」運営ボランティアの長岡 照子さんに来ていただき、災害時に身を守る方法や被災者にどんな支援が必要かといった体験に基づく貴重なお話をいただきました。当時、仮設住宅に入居したお年寄りの「同じような棟ばかりで自分の部屋が分からない」という声を聞き、かまぼこ板を使った表札が好評であったことから、再び「かまぼこ板表札」を作り東日本大震災の被災地へ届ける計画を実行中であることを話されました。そして、受講している学生全員で長岡さんの指導のもとにかまぼこ板の表札を作りました。

その準備や実習のサポートを上野ゼミの学部生7名と大学院生2名が行いました。かねてから「自分たちも何かできることをしたい」と思っていた学生達は、「Smile空間プロジェクト」を立ち上げ自分たちも「かまぼこ板表札」を作ることを決めました。学内外に呼びかけ集まった合計3,000枚のかまぼこ板に、カラフルな絵を描き、完成した500枚のかまぼこ板表札を持って平成23年8月2日（火）～4日（木）に、メンバー4名（前田 泰子さん、滝井 智子さん、血原 さとみさん、橋本 美奈さんと）上野教授は、長岡さんと共に、被災地（岩手県宮古市、下閉伊郡山田町、陸前高田市）を訪れました。仮設住宅や児童館、老人ホームで「かまぼこ板表札」と神戸女子大学波田学長から預かった「一枚の紙で折ったバラ」、「アクリルたわし」、「うちわ（家政学部管理栄養士養成課程キャリア支援ネットワーク）」も配付し、被災者の方と一緒にかまぼこ板を使って表札を作り、うちわに絵を描くボランティア活動を行いました。

メンバーは現地に行くまで「かまぼこ板表札」が、受け取ってもらえるか不安でしたが、裏面に書いた「神戸から応援しています」などのメッセージが喜ばれ、早速、玄関にとり付けてもらえるなど大好評でした。プロジェクトのメンバーは、現地の凄まじい被害状況と不自由な生活の中で生きていく被災者の姿に、生きるということを真剣に考え、逆に励まされるという胸のあつくなる思いを経験しました。そして、今後もこの活動を続け、集まったかまぼこ板全部の表札作りを行い被災地に送り届ける決意を新たにしました。

この「Smile空間プロジェクト」の活動は、マスコミ各社から報道され、また大和証券福祉財団の災害時ボランティア活動助成を受けました。



被災地でかまぼこ板表札を作る



上野教授とSmile空間プロジェクトのメンバー



名前を入れるだけになったかまぼこ板表札

2011 OSAKA 手づくりフェア「デコリメイク&リメイク チャレンジ展」で 神戸女子短期大学の学生2名が受賞

平成23年9月9日(金)、10日(土)にマイドームおおさかで開催された「2011 OSAKA 手づくりフェア「デコリメイク&リメイク チャレンジ展」(大阪服飾手芸卸協同組合主催)において神戸女子短期大学の学生が以下の成績を取りました。

総合生活学科2年 長谷 香緒里さん ブティック社賞(デコリメイク部門)
総合生活学科2年 西川 優衣さん 織研新聞社賞(リメイク部門)

関西の大学、服飾専門学校など11校から97名の応募がありました。本学からは総合生活学科から4名がそれぞれ2作品ずつ製作し出展しました。

デコリメイクは、既存の服飾品に、ビーズやワッパンなどの服飾資材を付けデコレーションしたもの、リメイクは、既存の服飾品に手を加え形や用途が変わったものです。

古くなって着られなくなった服や小物に工夫を凝らし、オリジナルの作品を作り上げました。リメイクとデコリメイクのおもしろさに目覚めた学生たちは、今後他にもない服や雑貨を作りたいと意気込んでいます。



長谷 香緒里さん



西川 優衣さん

綱引きの綱を東日本大震災で被災した小学校へ寄贈



綱引きの綱の強度を確認

文学部教育学科の佐藤 仁教授、齊山 美津子教授、中山 ふみ江教授が、体育館の倉庫を整理しているときに新品の綱引きの綱を3本発見しました。文部科学省の被災地支援サイトで、綱引きの綱を必要としている学校を募集したところ、岩手県大槌町大槌北小学校からいただいたとの申し出がありました。この時一緒に見つかった巻き取り機も含めて平成23年10月4日(火)に送付しました。

中山教授は新品とはいえ10年以上使用していない綱なので、バスケボール部、バレーボール部の学生を10名ずつに分け、綱をひいてもい使用に問題がないかどうか確かめました。

大槌北小学校では、東日本大震災で校舎は2階床まで津波の被害を受け、教材備品、体育備品、通信機器、事務用品など全て流出してしまい学校教育活動に支障が出ているそうです。運動会(10月29日開催)の団体戦で綱引きをする計画を立てておられましたが、綱引き用の綱がなく悩んでおられたそうです。

大槌北小学校は、9月20日より仮設校舎が完成し、小学校4校・中学校1校(児童生徒約750名)で同じ敷地内で学習を行っています。今後は、5校で共用の備品として有効利用したいとのこと。

「みんなで力を合わせて綱を引き、学校や街づくりにも力を結集してください」という中山教授のメッセージと共に綱引きの綱は大槌北小学校に届けられ、被災地の小学生に喜んでもらい、綱も忘れられた存在から脚光を浴びていることでしょう。

ほかに、神戸市立北須磨小学校に綱と巻き取り機、神戸市立高倉台小学校には綱を寄贈しました。



大槌北小学校へ寄贈した綱引きの綱と巻き取り機



感謝状



記念の盾

「ふれあい給食」サービスグループに感謝状が授与される

「神戸女子大学プロジェクトコスモス」は、平成23年9月13日(火)に神戸文化ホールで開催された平成23年度「神戸市社会福祉大会」において、「神戸市社会福祉協議会理事長感謝状」と記念の盾を授与されました。

このプロジェクトは、近隣の高倉台地域にお住まいの高齢者を対象に給食サービスをするものです。学生や教職員との交流を図り、引きこもり予防や健康づくりに貢献することを目的に、家政学部管理栄養士養成課程の駿河 明子教授(平成21年3月退職)が、当時の家政学部長瀬口 正晴教授らの協力のもと平成17年から始められました。

ふれあい給食は月1回、年10回須磨キャンパスの学生食堂2階の特別食堂において、NPO法人「舞たから台」のメンバー、給食の配膳などをボランティア学生、学生課、施設課、馬測商事の協力で開催され、毎回30数名の参加があります。

食事だけでなく、コーラス部、管楽器部、手話部、デンマーク体操部などの学生も参加し、日頃の活動の紹介をしながら、参加者と共に楽しい時間をすごしています。

神戸女子短期大学V-netの活動

第5回「こうべ朝食メニューコンテスト」第2次審査 神戸女子短期大学のV-netがボランティアスタッフとして参加

平成23年8月27日(土)神戸女子短期大学ポートアイランドキャンパスで、第5回「こうべ朝食メニューコンテスト」が行われました。

このイベントはこうべ朝食メニューコンテストプロジェクト会議と神戸市が主催し、神戸市内の全小学生を対象に手軽でおいしい「家族に作ってあげたい朝食」メニューを募集しました。1,354件の応募の中から書類選考で選ばれた13名と調理協力者(小学生以下の友人・きょうだい)12名の合計25名が、調理・試食による2次審査に進み、自慢の腕を振るいました。

神戸女子短期大学の食物栄養学科の「V-net(注1)」に所属する学生15名は、家とは違う調理室や調理器具でも子どもたちが実力を発揮できるように、事前の準備、調理中のフォローを行いました。また審査の準備や後片付けに至るまでコンテストに欠かせない役割を担いました。



調理中の子どもを見守りフォローする学生

子どもたちが懸命に調理する姿を見て、学生たちも精一杯のフォローをしました。帰り際には「お姉さんありがとう」と言われるなど、すっかり子どもたちと仲良くなっていました。

8月の最後の土曜日に行われたコンテストに参加した子どもたちとこのイベントを支えた「V-net」の学生たちにとって、朝食の重要性について考える機会と素敵な夏の思い出になりました。

この朝食メニューコンテストの審査委員長は神戸女子短期大学の長瀬 荘一 学長で、「こうべ食育推進懇話会」の会長です。



開会の挨拶をする長瀬学長(審査委員長)

神戸女子大学V-net+の活動

東日本復興を願って「神戸ふれあいフェスティバル」で創作した いも煮カレーを販売

平成23年10月15日(土)、16日(日)「神戸ふれあいフェスティバル」がメリケンパーク(神戸市中央区波止場町)で開催されました。このイベントは全県のイベントと地域イベントが連携することによって「ひょうご」の魅力を発信するために平成元年から始まりました。この数年は手づかり感溢れる内容になっています。今年は東日本大震災からの復興を願っての開催となりました。

神戸女子大学の家政学部管理栄養士養成課程の学生からなるボランティアグループ「V-net+(注2)」17名は、野菜ソムリエ高橋 昇氏の指導のもとに東北の食材を使って創作した「いも煮カレー」「りんごササ木風揚げ菓子」を販売しました。出店名は「いも煮会@KOBÉ」です。

このメニューは東北の伝統的な家庭料理「芋煮」と外国との交流が盛んな国際都市神戸の食文化とのコラボレーションを念頭におき生まれたものです。



販売したいも煮カレー

このイベントのために「V-net+」の学生は夏休みに高橋氏の研修を2回うけ、調味料や香辛料の割合にも工夫をこらしました。調理には慣れているメンバーですが、400食分のいも煮カレーと揚げ菓子の食材の準備と調理は大変だったようです。

前日は大雨で開催が危ぶまれた当日は曇り空でしたが、多くの来場者でフェスティバルは賑わい、「V-net+」のいも煮カレーに「おいしいですね」「芋がカレーに合うですね」といった言葉をいただきました。この売り上げは東北の復興を応援する義援金になりました。



神戸ふれあいフェスティバル)で活躍したV-net+のメンバー

(注1) V-netとは・・・阪神・淡路大震災をきっかけに発足した栄養士・管理栄養士養成施設で構成されたボランティアネットワーク。神戸女子短期大学では、「V-net」という学内のクラブとしても活動している。

(注2) V-net+とは・・・V-netのメンバーのうち、神戸女子大学の学生のみで構成した神戸女子大学の同好会の1つとして活動するボランティアグループ。

大学コンソーシアムひょうご神戸

子育て支援に関するシンポジウム

平成23年10月21日(金)神戸女子大学三宮キャンパス(神戸女子大学教育センター)にて大学コンソーシアムひょうご神戸 研修交流委員会主催による子育て支援に関するシンポジウムが開催され、約100名の参加者がありました。テーマは「子育てと子育てに求められる生活環境を考える」でした。文学部教育学科の大橋 喜美子教授がコーディネーターを務めました。現状と課題、子どもにとってのより良い生活環境、家庭生活や保育・教育、支援の方法についてシンポジストの発表がありました。参加者からの質問に、研究者の立場に加えて保育の現場を熟知しているシンポジストならではの貴重な回答がありました。

大学コンソーシアムひょうご神戸設立5周年事業 震災と復興に関するセミナー

震災を契機に生まれた学生ボランティアグループの活動

—震災にどう立ち向かい、震災からいかに復興していくか—



郡山女子大学
庄司 一郎教授

平成23年11月19日(土)神戸女子大学では、大学コンソーシアムひょうご神戸設立5周年事業の一環として、震災と復興に関するセミナー「震災を契機に生まれた学生ボランティアグループの活動—震災にどう立ち向かい、震災からいかに復興していくか—」を開催しました。

最初に、甚大な被害を受けた被災地、福島県の郡山女子大学家政学部教授の庄司 一郎先生に、被災地の復興と再生についての講演をしていただきました。

本学園の「V-net(注1)」は、キャンパスをとおして災害時の調理体験や保存食品だけでつくれるレシピ集を作成するなど独自の活動もしています。そのボランティア活動について学生が発表しました。続いて「V-net+(注2)」が「神戸ふれあいフェスティバル」でも販売した「いも煮カレー」の試食が行われました。(注1、2・・・本誌14ページ参照)

最後に、阪神・淡路大震災を契機に災害時に必要な知識と役立つ力を身につけることを目的に兵庫県内の栄養士を養成する大学・短期大学などで結成された「V-net」の設立に深く関わった神戸女子短期大学の森下 敏子名誉教授より当時の体験と今後の支援についての講演がありました。



神戸女子短期大学
森下 敏子名誉教授

東日本大震災による被災地支援ボランティア

大学コンソーシアムひょうご神戸では、神戸市社会福祉協議会などの主催する東日本大震災被災地支援「夏休み学生ボランティアバス」に協力し、宮城県名取市、気仙沼市でのボランティア活動を行いました。応急仮設住宅などに入居された方々の自立的復興に向けた支援を応援することを目的とするものです。神戸女子大学では、9名の学生と職員1名が参加しました。

ポーアイ4大学による連携事業

「ポーアイ4大学総合防災訓練」—巨大災害への初動対応—

平成23年10月15日(土)時折小雨がぱらつく中、神戸市水上消防署と兵庫県神戸水上警察署のご協力を得てポーアイ4大学連携推進センターの主催で総合防災訓練を実施しました。

今回は東日本大震災を受けて、津波への対策が加えられました。

ポードアイランドキャンパスで13時30分、緊急地震速報のテスト放送を受け、学生、大学波田学長、短期大学長瀬学長、教職員が神戸学院大学へ移動して、避難訓練を行いました。その後グループ講習が行われ警察署、消防署の機材展示や放水訓練を見学しました。

その後、津波避難訓練を実施し避難時の心構えなどを聞いた後、高所からの重傷者搬送とヘリコプターを使った搬送の実演が行われ、警察署長、消防署長、そして神戸学院大学の岡田 豊基学長の講評が行われ訓練は終了しました。

最後に非常食の配布も行われ、参加した多くの学生、教職員、地域の住民の方々も訓練の大切さを実感した日となりました。

(ポーアイ4大学……神戸学院大学・神戸女子大学・兵庫医療大学・神戸女子短期大学)



避難椅子を利用した避難訓練 消防署、ヘリコプターでの重傷者搬送訓練

神戸女子大学公開市民講座は地域の健康づくりにも貢献

夏季講座「あなたの体力発見」

平成23年9月14日(水)神戸女子大学須磨キャンパス体育文化ホールにおいて、神戸女子大学公開市民講座「あなたの体力発見」が開催されました。

第1部(午前)18名、第2部(午後)に8名が受講しました。

この公開講座は、1993年に同ホールの体力科学センターに体力測定コンピューター診断装置を導入したことに始まり、神戸女子大学の健康づくりにおける社会貢献活動としてコンピューターによる体力診断を継続して行っているものです。受講者には、リピーターが多いのが特徴です。

体力測定を開始する前にこの講座の講師である健康福祉学部健康スポーツ栄養学科の重福 京子准教授から、安全に体力測定を行うための説明と機械を扱う際のきめ細かい注意がありました。

最初に全員で、音楽に合わせてストレッチを行い、測定を開始しました。体力測定は、心肺持久力はエアロバイク、柔軟性は立位体前屈、敏捷性は反復横跳び、瞬発力は垂直跳び、平衡性は閉眼片足立ち、筋力測定などをそれぞれの機械を使って行いました。

測定が終了すると直ちに体力診断表が作成され、項目ごとの数値や評価と総合評価が分ります。さらにこの講座を当初に企画し、現在も健康づくりのアドバイザーをつとめる神戸女子大学の倉敷 千絵名誉教授から個別に説明があり効果的なトレーニングの方法と健康のあり方についてのアドバイスがありました。

受講者の方々は、健康な生活を送ることに関心をもち、体力測定を受けることによって、より健康的な生活習慣を身につけたいとの積極的な意思をもっておられました。



エアロバイクを漕ぐ受講者



音楽に合わせてストレッチ

さわやか健康講座2011～ADL体力を高めよう～が始まる

平成23年10月1日(土)神戸女子大学須磨キャンパス体育文化ホールにおいて神戸女子大学公開市民講座「さわやか健康講座2011～ADL体力を高めよう～」が始まりました(17回開講)。60歳以上80歳未満の方を対象とした90分間の講座です。講師は健康福祉学部健康スポーツ栄養学科の重福 京子准教授と文学部下村 尚美助手です。

本講座は、平成14年10月より神戸市保健所地域保健課と提携し、健康神戸21推進事業の一環として神戸女子大学において始まった、高齢者の健康づくり講座「ADL:Activities Of Daily Living 日常生活活動作性のための体操講座」が源流です。そして公開市民講座として引き継がれました。公開市民講座としては今回で4回目の開講で、毎回150名前後の申込みのある人気の講座となっています。今回は172名の申込みがありました。

初日に重福准教授から受講する際の注意事項の説明があり、受講者は、毎回体操の前に血圧を測り個人カードに記録し、その日の体調を自己管理して、無理をせず楽しく参加することを心がけてもらっています。

身の周りのことは自分で出来る体力を維持向上できることを目標に、有酸素運動「ソフエアロビクス」、「ストレッチ」、筋力トレーニングの「体重を用いたトレーニング」、「チェアエクササイズ」などを行い、家庭でも出来る運動を提供します。

前半は、重福准教授の軽妙な語り口による指導で軽快なテンポの音楽や時には癒しを感じるゆったりしたメロディーに合わせて、受講者は自分にあったペースでトレーニングを行いました。

後半は、下村助手も指導に加わり、「新たな仲間づくり」ができるよう受講者同士のコミュニケーションをとるため、レクリエーションの要素をもった2人1組のトレーニング、10名前後で輪になって行うトレーニングを続けて行いました。

最終、重福准教授から家庭でできるトレーニングについての説明があり、参加者の健康な生活を送りたいという熱意と参加者同士のコミュニケーションが自然に取れるトレーニングで和やかな楽しい雰囲気の中で30分間は、あっという間に過ぎてしまいました。

17回の講座が終わる頃には、多くの参加の方の体力が向上し、新たな人の輪が広がっていることを願っています。



輪になっているトレーニング

神戸女子大学家政学部家政学科の学生による オリジナル企画・作製で「まちづくり学習絵本」が誕生

平成23年2月6日(日)に「須磨ニュータウン展」(須磨区区民まちづくり会議・神戸市須磨区主催)において、家政学部家政学科生活空間コースの学生が、「地域生活演習」[梶木 典子准教授担当]という授業の一環で、子どもを対象に未来のまちを形にするワークショップ「みんなでつくりよう!ハッピータウン」を実施しました。

このワークショップでは、まず、自分たちが住んでいるまちはどのようにしてつくられたのかを理解し、そして、そのまちが将来どのようなようになって欲しいのかを考え、みんなで様々な素材を用いて「未来のまち」の模型を作りました。

ワークショップのねらいをわかりやすく伝える導入として、家政学科の学生がオリジナル絵本「ニューミーとタイムトラベル」を開発しました。この絵本は、小学生の男の子と女の子が山の妖精「ニューミー」と一緒に時間旅行をして、まちづくり学習をする内容です。オリジナルキャラクターとして描かれた「ニューミー」は、お話を聞いた子どもだけでなく、保護者にも大変好評で、「是非、これを絵本として出版してほしい」という要望が多数寄せられました。

須磨ニュータウン展終了後、このような強い要望に応えるとともに、神戸のまちづくり学習を推進することを目的として、神戸市住まいの安心支援センター「すまいるネット」のご協力を得て、絵本「ニューミーとタイムトラベル〜こうべまちたんけん〜」とDVDをセットとして平成23年11月に発行しました。

この絵本は、今後、神戸市の「まちづくり学習絵本」として、未来を担う子どもたちに自分たちの住むまちに愛着をもちまちづくりに関心をもってもらい、これからの地域の活性化に役立てていただくため、希望のある小学校などに配付しています。

問合せ：神戸女子大学 家政学部家政学科 梶木研究室 電話：078-737-2420(直通)



梶木准教授と絵本の企画・作製をした学生

須磨離宮公園で 「神戸女子大学 ローズ・フェスタ」を開催

平成23年10月16日(日)「神戸女子大学ローズ・フェスタ」(主催神戸女子大学地域連携推進委員会 ローズ・フェスタ実行委員会 主担 文学部教育学科齊山 美津子教授)が開催されました。一昨年は、インフルエンザの影響、昨年は雨天で中止となり、3年ぶりの開催となりました。前夜の大雨もきれいにあがり秋晴れのさわやかな晴天に恵まれ、離宮公園の景観をバックにつくられた特設ステージでは、日ごころの練習の成果を発揮した熱演、熱唱がくりひろげられました。

神戸女子大学からは、管弦楽団・手話部・琴曲部・マンドリン部が演奏し、地元高倉台から「高倉台コー



離宮公園の景観をバックに演奏する琴曲部の学生

エコー」&「高倉台男声合唱団」の皆様、バンドグループやシンガーソングライターの方にも参加いただき楽しく聞き応えのある音楽祭となりました。

演奏の間には服飾研究会の部員が自ら作ったロココ調のドレスを着て「ローズプリンセス」姿を披露しました。パン研究会は恒例となっているオリジナルパン750個を無料配布し、今回も大変好評でした。プログラムの最後には観客の皆様と出演者全員で「世界に一つだけの花」をうたいフィナーレとなりました。多くの方のご来場をいただき、出演した学生・ボランティアの学生にとって大きな励みになり、学びの多い地域貢献活動となりました。



告知用チラシ



学園からのお知らせ

○第66回国民体育大会:セーリング競技会入賞

平成23年10月2日(日)～5日(水)の期間に山口県光市において開催された第66回国民体育大会で神戸女子大学健康福祉学部健康スポーツ栄養学科3回生の児玉 弥生さんが、セーリング競技のセーリングスピリッツ級(成年女子)で見事7位に入賞しました。

児玉さんは、高校生のときからヨット部に所属し、人との競争だけではなく自然と戦いながら試行錯誤するセーリングに魅せられ現在まで続けてきました。平成18年の兵庫国体では強化選手として参加し、入賞した経験もあり、今回は2度目の入賞となりました。

現在、兵庫県セーリング連盟に所属しています。活動期間は4月～10月で、夏場は週2回、新西宮ヨットハーバーで練習しています。

児玉さんは、社会人入試で神戸女子大学に入學しました。現在の所属している学科とは全く違う分野の学部を卒業し、社会人としての3年の経験もっています。

スポーツと自然が大好きな児玉さんは、スポーツと栄養について本格的に勉強したいと思い、本学の健康スポーツ栄養学科が創設された時に受験しました。2度目の学生生活では、自分の本来に勉強したい分野を学び専門分野にかかわるボランティア活動をする楽しみを味わいながら充実した日々を送っています。本学の少人数教育の良さも実感しています。

卒業後は、栄養士としてスポーツ選手にかかわる仕事や学校の教員も視野にこれ、身につけた知識と経験を生かせる分野に進みたいという将来の希望もっています。セーリング選手として健康スポーツ栄養学科の学生として児玉さんのますますの活躍を期待しています。



国体の賞状を持つ児玉さん



国体で競艇中の児玉さん(右)

○世界女子空手道選手権大会 日本代表として出場

平成23年11月4日(金)に東京体育館にて開催された「2011世界女子空手道選手権大会」に神戸女子大学健康福祉学部健康スポーツ栄養学科3回生の田中 千尋さんが日本代表7名の中の1名に選ばれ出場し、ベスト16に残りました。

田中さんは8歳からお母さんのすすめで空手を始めました。女の子は珍しく周りの人にもついかわいがられ、親切にされとても楽しく道場にかよっていたそうです。

中学生になり初めて試合に出ましたが、空手では、中学生以上は一般の部となり年齢制限がなく大人と対戦することになりました。中学生になったばかりの田中さんが試合に勝つことは難しく、悔しい思いをしたことにより、いっそう真剣に練習に励むようになりました。日々の努力がみのり、試合に勝つようになりさらに空手が楽しくなりました。

世界大会の前は、日曜日以外の午後8時から10時30分まで道場で特訓をつづきました。将来は、アメリカでさらに空手の研鑽に励みたいという希望があります。空手を続けて良かったこととして、何事にもあきらめない強い精神力が備わったとうことです。

田中さんはスポーツをしている自分にとって一番になるという理由で健康スポーツ栄養学科を選びました。大学で学んだ知識も生かして世界で活躍されることを願っています。



世界大会の試合中の田中さん



世界大会の出場が決まったことが
思われた賞状を持つ田中さん

○第7回日本ウォーキング学術賞を神戸女子大学健康福祉学部糸井 亜弥助手が受賞

平成23年6月28日(火)、健康福祉学部糸井 亜弥助手が第7回日本ウォーキング学術賞(江橋慎四郎賞)を受賞されました。平成22年6月に国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された第14回日本ウォーキング学会大会で発表し、学術機関誌「ウォーキング研究(Walking Research)No.14」に掲載された論文「都市部小学校6年生の身体活動量と栄養素摂取状況—平成21年における調査—」に対して社団法人日本ウォーキング協会から最優秀論文として贈られたものです。

糸井助手は「子どもの生活習慣病のための基礎研究」をテーマに、子どもの肥満と身体活動量、食生活、生活時間との関連や問題点を明らかにすることを目的として、小学校から高等学校に在籍する学年や地域の異なる広範な児童生徒を対象に調査を継続しており、この度受賞された論文は、都市部小学校6年生における調査結果について検討しています。



第7回日本ウォーキング学術賞の賞状

行事日程

1月

6	日	元旦
6	金	<大学・短大>後期授業再開
9	月	成人の日
14	土	大学入試センター試験(15日まで)
17	火	阪神・淡路大震災鎮魂の日
18	水	<大学>学生会後期総会
19	木	一般入試前期(20日まで)
28	土	<短大>ブルーム展(2月2日まで)

2月

3	金	<大学・短大>後期授業終了
4	土	<大学>理学部・理学科試験
10	金	<短大>後期定期試験・補講期間終了
11	土	建国記念の日
13	月	<短大>学芸全行進(14日まで)

3月

1	木	一般入試後期
9	金	<短大>2年次生登壇日
15	木	<大学>学位授与・学修証明授与・卒業祝賀会
18	日	<短大>学位授与授与式・卒業記念パーティー
20	火	春分の日

4月

3	火	<短大>入学式
4	水	<大学>入学式
9	月	<大学・短大>前期授業開始
29	日	昭和の日

表紙写真

オーバーナイト・センセーション Overnight Scentsations

宇宙を旅したバラ
「オーバーナイト・センセーション」

2010年の6月13日、約7年間のミッションを終えた小惑星探査機「はやぶさ」が帰郷の生還を果たしたことは、多くの日本人の記憶に新しいところではないでしょうか。

これより12年前の1998年10月29日に、ケネディ宇宙センターから打ち上げられたスペースシャトル「ディスカバリー」には、日本人宇宙飛行士・向井千秋さんが搭乗していました。向井さんと一緒に宇宙を旅して、宇宙空間で初めて花を咲かせた植物となったのが、バラの「オーバーナイト・センセーション」です。香り成分が微小重力の宇宙でどう変わるかを調べるための実験材料でした。宇宙では、香りを構成する3つの化学成分に顕著な変化が現れ、地球上では発することのない香りが確認されたそうです。この大役に「オーバーナイト・センセーション」が選ばれた理由は、バラは世界中の人々から愛されている植物であること、そして打ち上げ時にかかる約4Gの重力に耐えて、10日間の飛行中に開花すること等の条件を満たしたからと言われています。実験を行った向井さんは「人工的な環境の中でバラの花を見られるのは最高に幸せ」とコメントされました。

「オーバーナイト・センセーション」は小型の「ラ・ミニチュア系」に分類されていますが、ミニチュア系とは思えないほど花は大きく、しっとりした形で、強い芳香があります。

宇宙へ思いをはせながら、須磨離宮公園の「オーバーナイト・センセーション」をご覧になればいかがでしょうか。

神戸市立須磨離宮公園 園長 吉田 一郎



編集後記

新年明けましておめでとうございます。

今回から学園広報誌の発行は、依に学園行事が多く行われ、多方面にわたる活動を取り上げた内容にしたいという思いから半年毎にいたしました。

冬号を皆様にお届けするが例年より1ヶ月遅くなりました。昨年、世相を表現する表紙として「絆」が選ばれました。大規模な災害の経験から家族や友人といった身近でかけがえのない人ととの「絆」をあらためて知った一年でした。

今回のCROSSROADS vol.13は多くの学内・学外の方との「絆」によって生まれました。本誌でとりあげた様々な活動は、決して個人単位でもできるものではなく、多くの人のつながりによって成り立っているのだと取材するたび「絆」のもつ力の大きさを感しました。広報誌の発行にご協力いただいた教職員、学生、関係者の皆様にご感謝を申しあげます。

この冬も引き続き電気が求められ、皆様も寒さ対策に工夫を凝らしておられることでしょう。寒い時期もやがて終わり、季節はめぐって必ず春はやってきます。今年も千支にちなみ皆様の努力が実り、その成果が異なりとなり、明るい話題をたくさんお届けできるように願っております。(M.O.)

神女 2012年1月号担当

編集・発行 学校法人行言学園 学園情報センター 学園広報担当
〒650-0046 神戸市中央区港島中町4-7-2
TEL.078-303-4790 FAX.078-303-4713
ホームページアドレス <http://www.yg.kobe-wu.ac.jp/>
E-mailアドレス gakuenkoho@yg.kobe-wu.ac.jp
印刷 交友印刷株式会社

※「神女広報」へのご意見、お問い合わせなどお寄せください。



学校法人行吉学園



神戸女子大学



神戸女子大学大学院



神戸女子短期大学



神戸女子大学教育センター

vol.13

2012 Winter

「自立心・対話力・創造性」を力めるコミュニケーションで拓く

神女広報

CROSSROADS